

科研費・新学術 A-02 班 第 3 回 論文執筆研修 実施報告

期間：2016 年 7 月 4 日(日) — 7 月 7 日(木)

場所：筑波大学総合研究棟 B 7 階 728, 8 階 811, 812 室, 1 階 110 セミナー室

参加者：五十嵐康人(気象研), 青山智夫(江戸川大), 浅沼順(筑波大), 古川純(筑波大), 加藤弘亮(筑波大), 佐藤志彦(JAEA), 羽田野祐子(筑波大)

【学生参加者】野田祐作(筑波大 D3), 神林翔太(富山大), 渡辺菜月(横浜国立大学), 小野貴大(東京理科大 M1), 小野崎(東京理科大 B4), 岡宏樹(筑波大 M2), 古谷真人(筑波大 M2), 加藤遼(筑波大 M1), 寺尾友貴(筑波大 M1), 小西将貴(筑波大 M1), 雨谷健司(筑波大 B4), 太田洋平(筑波大 B4), 中村祐太(筑波大 B4)

配布資料：進行プログラム, 「確率過程教育セミナー」テキスト

実施内容

1. 第 1 日

参加者の研究について下記のようにプレゼンテーション・質疑応答を行った。今回は A01-2 班以外からの参加者も募集した。

13:00 開場

13:00 論文執筆研修について(羽田野祐子, 筑波大)

【学生による研究発表】

18:00 懇親会 (灯禾軒)

2. 第 2 日以降は朝 9 時から夕方 5 時以降まで、各学生が論文を執筆し、参加者相互で議論を行った。修正すべき箇所について相談し、朱筆を入れた原稿を執筆者に戻し、論文の完成を目指した。連日、夜遅くまで執筆作業をする学生の姿が見られた。最終日午後、本研修で得た成果についての発表会を行い、期間中にどんな進展があったか、投稿までにあとどのくらいの作業が必要かについて確認を行った。

3. 講演会 2 件

7 月 4 日「確率過程教育セミナー」筑波大学名誉教授 金野秀敏先生

Ornstein-Uhlenbeck 過程を中心に、確率微分方程式の求解法、統計力学によるアプローチについての講演が行われた。天文データについても Ornstein-Uhlenbeck 過程による解析が有効である。

7 月 5 日「研究の計画の立て方と論文の書き方」産業総合研究所 中田亨先生

研究を進める上で、余分なことはやらずに必要なことをきっちりやるのが重要。論文は、一つの章だけを集中的に書いてもバランスが悪いので、全部の章を少しずつ(目安は 2 割)書き進めるやり方を奨励する。

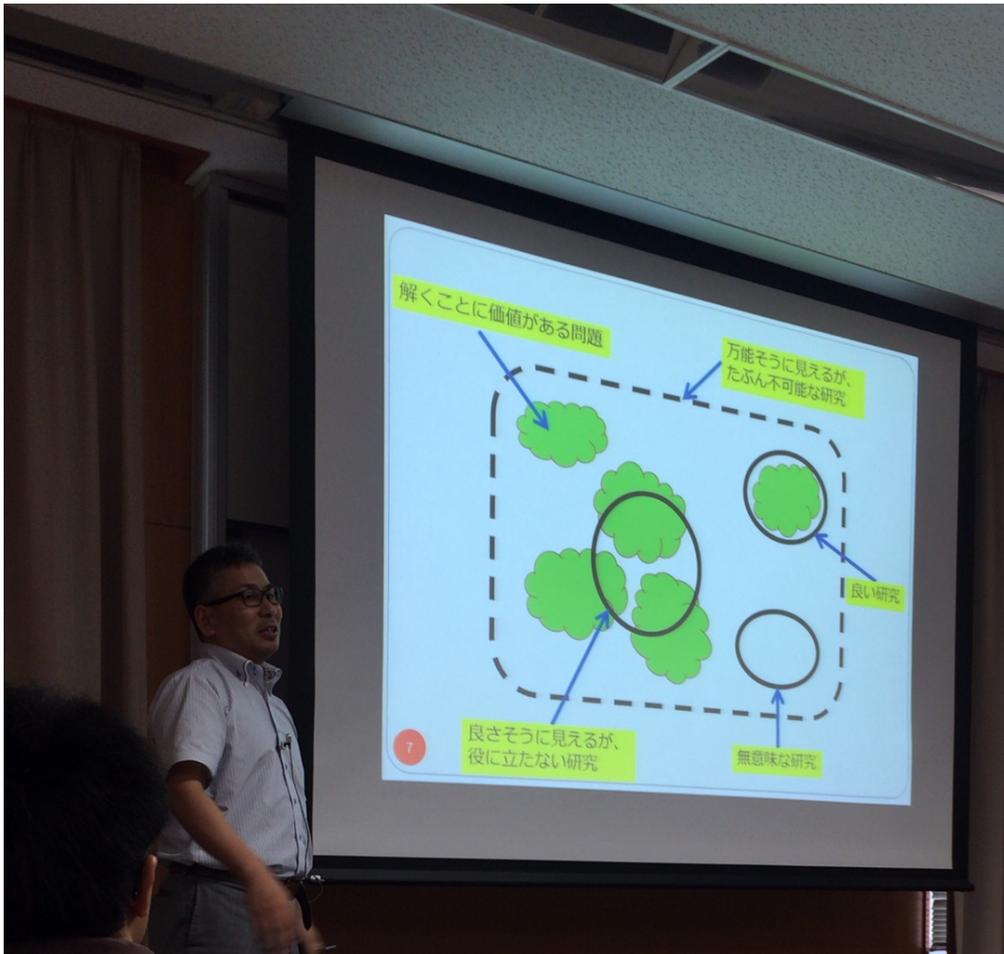


写真 1: 産総研・中田亨氏による研究企画と論文作成に関する講演会



写真 2: 産総研・中田亨氏による研究企画と論文作成に関する講演会

3. まとめ

昨年に引き続き、本年も論文執筆研修を行った。反省点が2点ある。

(1) 日程調整の重要性

今回は Goldschmidt 会議の直後の開催が便利と判断して実施したが、実際は別件の会議が入っており、参加した学生が参加できなかった可能性がある。今後は、別件の会議の開催可能性も含め、日程を検討すべきだと考えられる。また、「研究計画の立て方・論文の書き方」というタイトルの講演会は非常に好評であり、そのノウハウがさっそく研修中に生かした学生も見られた。

(2) 参加者同士の交流の促進

参加者のバックグラウンドが異なるため、なかなか細部にまで立ち入った討論に発展しなかったことが反省点として挙げられる。もちろん、研修以前よりははるかに、別分野の人の研究が理解できるようになったが、それでもまだもう一歩、踏み込み足りないと感じる。これには、よりいっそうの相互理解と交流の機会が必要であり、今後の課題であると強く認識した。

最後に、添付資料1に参加学生の感想一覧を載せる。参加学生のみなさん、ご指導くださった先生方に感謝いたします。

【添付資料 1】 研修期間中の作業報告および感想

■野田(筑波大 D3) : セミナーに先立ちまず自身の研究について発表し他分野の専門家の興味とするところを把握した。我々が追求したい点と他分野が参考したい点に相違があったので論文執筆の際の参考となった。セミナー開始に指導教員とディスカッションし、論文の流れを決める上でのデータの選択や追加の検討を行い執筆を開始した。本セミナーと参加研究発表会(第53回アイソトープ放射線研究発表会)が一部被っていたため目標の達成は厳しかったが最低限の執筆は行えた。セミナー内の講演はいずれもためになり、特に産総研の田中氏の講演は論文執筆の際のポイントや今後の研究計画に多いに役立った。本セミナーを通じて論文執筆に対する向き合い方、計画の立て方を大いに学ぶことができた。今回のセミナーの経験を生かし、少しでも質の高い雑誌に掲載できるよう努めていきたい。

■神林(富山大 D2) : 論文執筆合宿では前半を図の修正に、後半を本文の修正と投稿先の選定に費やした。普段とは異なる環境で非常に集中して作業に取り組むことができたと同時に異分野の先生方との議論を通じて新たな着眼点を見つけ、議論を深めることができた。さらに2件の講演では今後の研究活動や論文執筆の参考になる貴重な講演を伺うことができた。これらのことから、本合宿は非常に有意義なものであったと感じている。なお、本合宿で作成した論文は、早急に修正作業および共同執筆者の確認を終わらせた後、投稿する予定である。最後になりましたが、論文を執筆するにあたり参考になる意見をいただきました五十嵐先生、羽田野先生、加藤先生、古川先生、および佐藤様に感謝申し上げます。

■渡辺(横国大 M2) : 研究室から離れた場所で、論文のデータに向き合うことができ、頭を整理することができた。また、違う分野の人との議論から、知識を増やすことや、異なる視点での考えに気づき、深めることができた。講演も、今後の研究生活に役立つもので、どのように研究を進めていけばよいのかという指針が見えた。

■古谷(筑波大 M2) : 外部の人がいる、いつもとは違った雰囲気緊張感を持って論文執筆に臨むことができ、有意義な時間を過ごすことができました。非常にためになる講演会を聞くこともでき、今後の研究に役立てていきたいです。

■岡(筑波大 M2) : 3度目の論文合宿でしたが、執筆の大変さを改めて感じました。今回は講演会で大変貴重なお話を聞くことができ、論文執筆だけでなく多くのことを学べる有益な時間となりました。

■加藤(筑波大 M1) : 今回は論文執筆よりもそのためのデータ取得を重点的に行った。結果として課題が多くあることが判明したが、逆に問題を自覚するために時間を有意義に使えたにとらえている。今回の目玉となった講演会はTA業務のために行けなかったのだが、後の話を聞いていけなかったことを後悔している。

■小西(筑波大 M1) : 計画発表の場や講演会がいくつかあり、大変参考になりました。普段聞くことのできない先生方から貴重な意見を頂き、有意義な会であったと感じます。また、

いつもと違うメンバーであり、緊張感や集中力をもって研究を進めることができました。

■寺尾(筑波大 M1:)以前からやらなければいけないと思っていたことができました。まとまった時間が取れるのは貴重なことと感じました。

■中村(筑波大 B4): 今回の論文合宿では、論文を執筆することはなかったが、研究計画の立て方や進め方などためになる話が聞けてよかった。いい卒論が書けるようにがんばりたい。

■太田(筑波大 B4): 先輩方や他の大学の方などにも良い刺激を受け、次の論文合宿では一つ形として残せるようにしたいです。

■雨谷(筑波大 B4): みなさんの議論している姿をみて研究に対するモチベーションがあがりました。下準備の勉強を早く終え、研究に入りたいと思います。